

都市再生整備計画

もちがせ ちく
用瀬地区
(第2回変更)

とっとりけん とっとりし
鳥取県 鳥取市

平成25年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	鳥取県	市町村名	鳥取市	地区名	用瀬地区	面積	57 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

目標							
大目標：地域資源や交通特性を活かしながら安全で安心して暮らしやすい地域環境を構築し、地域生活拠点として魅力的なまちの実現をめざす。							
目標 1	人に優しい道路整備や防災機能の強化により、安全で安心して暮らせる良好な居住環境の形成を図る。						
目標 2	交通結節点機能の強化や公共交通網を再構築し利便性を高める。						
目標 3	歴史や文化、景観を活かした環境整備によりまちの魅力を高め、居住者や来訪者の快適性を高める。						

目標設定の根拠							
まちづくりの経緯及び現況							
<ul style="list-style-type: none"> ○用瀬地区は、旧用瀬町の中心部として、JR用瀬駅を中心に、用瀬町総合支所・用瀬町中央公民館などの公共施設、用瀬町総合福祉センター・用瀬町デイサービスセンターなどの福祉施設、用瀬中学校・用瀬小学校等の教育施設が集積した地区である。 ○用瀬地区は江戸時代からの「上方往来」の宿場町の風情を残す街並みがひっそりと残り、かつては17基もの水車が回り、貴重な動力源として、住民のふれあいの場として親しまれてきた瀬戸川が流れている。その瀬戸川の川底には清流しか育たない梅花藻が繁殖し、春には水中に白い花が可憐に咲いている。平成21年度に策定した「用瀬もてなしの心地域づくり推進計画」では、まちを訪れる方のための水辺の整備や休憩所の設置などが計画されている。 ○また、用瀬町に伝わる「流しびな」の風習は、美しい山々の緑と千代川の水の美しさを背景に、そこに住む人々の想いを託して時を経て引き継がれて現在に至っており、「流しびなの里 もちがせ」として全国的にも知られている。その伝承施設である「流しびなの館」が千代川沿いに整備されており、広域的な観光・交流の拠点ともなっている。 ○平成21年3月には、鳥取自動車道の用瀬I.Cが本地区の約2.7kmの美成地区に整備され、産業の発展や観光振興の期待が高まるとともに、その有効活用に向けた取組が求められている。 ○本地区を含む用瀬町の人口の動向は、人口減少率、少子化・高齢化とも、鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。その中でも本地区の進行が著しい。 ○人口の流出やモータリゼーションの進行などにより、既存の商店街や地場産業が衰退し、空き店舗や空き家が増加している。下水道事業や総合運動公園整備なども取組んでいるが、安全な生活道路や河川、身近な公園などの整備が遅れており、安心して暮らすための都市基盤の整備が遅れている。 ○各種の市民アンケートでは、鉄道やバスなどの公共交通が不便と感じている割合が高くなっている。JR用瀬駅と路線バスの連携が取りづらいなど公共交通の利便性が低く、公共交通の利用者は年々減少している。 ○都市再生整備計画の策定は、地域と協働して地域の再生を推進するため、学識者に加え地域のまちづくり団体や住民も参画しており、用瀬地区まちづくり協議会や用瀬もてなしの心地域づくり推進会、地元商店会などとも連携したまちづくりを進める取組体制が整いつつある。 							

課題							
<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化の時代に対応し、安定した市民生活を提供し得る都市運営を行うためには、地域生活拠点における快適な居住の促進、交通結節点強化、更には商業、文化、地域間交流の活性化が重要な課題である。 ○当該地区は、人口減少、少子高齢化が急速に進行するとともに、商店街や地場産業が衰退している。特に、子育て世代を中心とした若年層の流出が著しく、地域コミュニティの維持やまちの持続性の意味からもこれらの世代のニーズに即した定住化の促進や安心して子育ての出来る環境の整備が課題となっている。 ○地区内の生活道路は、幅員4.0m未満の狭い道路が多く、地区内を縦断する幹線道路であっても歩道の整備が進んでいない。夜間でも安心して歩いて暮らせるまちづくりが求められている。 ○また、広域幹線道路である国道53号に沿って「JR線（因美線）」が走っていることから狭く危険な踏み切りも多く、交通安全にむけた道路環境の整備が必要である。 ○宿場町時代の間口が狭く奥行きが長い町割りがあり、狭い道路沿いに家屋が連担している。空き家や空き店舗、空地が増加しており、伝統的、文化的な建築物は、老朽化により失いつつある。現存する資源の保全や地域独自の街並みの創出によるまちの魅力づくりや継続して活用していくための仕組みや組織づくりをどのように進めるかが課題となっている。 ○JR用瀬駅と最寄の路線バス停留所から約350m離れているなど、公共交通機能の連携が図られていない。鉄道、バス、自動車、自転車などの様々な交通手段相互の連携強化や利便性の高い新たな公共交通システムの構築が求められている。 							

将来ビジョン(中長期)							
<ul style="list-style-type: none"> ○平成18年に策定した「鳥取市都市計画マスタープラン」では、多極型のコンパクトな都市構造を理念としており、都市の広域的な拠点である中心市街地の活性化と併せて、地域の日常生活の拠点となる地域生活拠点の再生が重要なポイントとなっている。用瀬地区は地域生活拠点に位置付けられ、生活基盤の整備や、福祉・文化施設の充実、地域内の定住対策の促進などにより地域の活性化を図ることとされている。 ○平成20年度に策定した、「鳥取市地域公共交通総合連携計画」では、用瀬地区を周辺部結節点に位置付け、パーク&ライド駐車場の整備やサイクル&ライド駐輪場の整備、待合環境の充実並びに乗り継ぎ抵抗の緩和のための制度の検討をすることとしている。 ○平成19年度に策定した「鳥取市景観計画」では、歴史的資源を活かした景観形成を図るため、用瀬地域の宿場町の風情を保全・活用して魅力ある街なみ景観を形成していくこととしている。 ○住民が主体となって「知恵、工夫、手作り」のまちづくりを支援し、既存の地域資源や交通特性を活かしつつ、街なみ形成や自然環境の保全、歩行者の安全確保や公共交通連携などの利便性の向上、空き家・空地の利活用など身近なまちづくりによって、快適で魅力的なまちなか居住・まちなか再生を目指す。 							

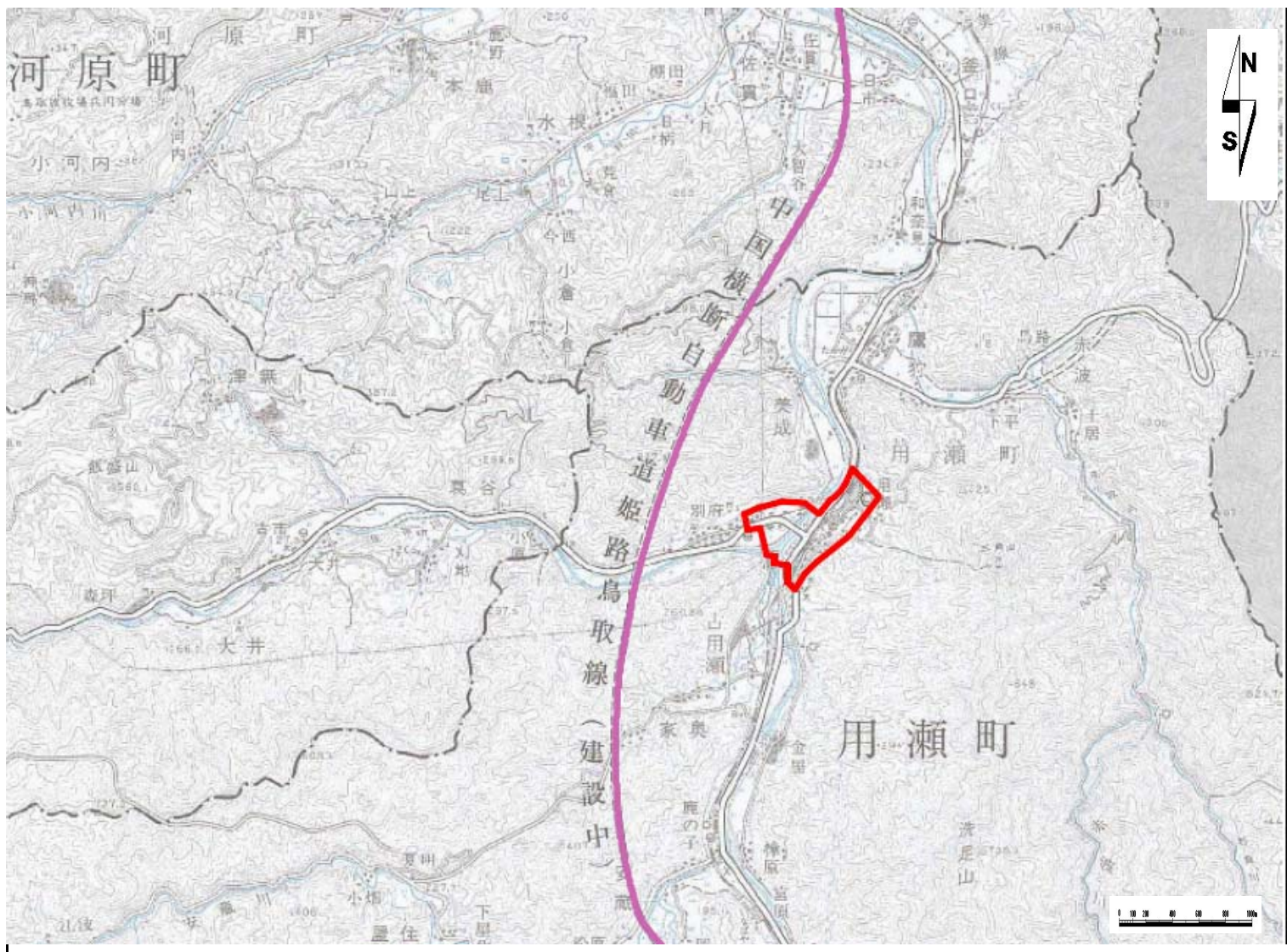
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値	目標値	目標年度
				基準年度			
1. 地区内の居住人口	人	居住人口	地域の暮らしやすさを定量化する指標として、地区内の居住人口とする。平成16年度から平成21年度までの帰帰推計によると、平成26年度には894人まで落ち込むことが推定される。居住環境の改善や若年層の定住化施策等により減少率を半減させ934人を目標とする。	973人	平成21年 (H22年3月末) 住民基本台帳	934人	平成26年
2. バスの乗降客数	人/日	用瀬バス停留所の乗降客数	交通結節点強化による公共交通機関の利用促進の効果を定量化する指標として、用瀬バス停留所の乗降客数とする。平成22年の用瀬地区のバス停（用瀬、下町）での乗降客は81人/日である。路線バスシステムの再編や駐輪場の整備など利便性の向上により、公共交通の分担率を引き上げることで現況の乗降客数の1.5倍を目指す。	81人	平成22年	122人	平成26年
3. 住みやすさの満足度	%	市民アンケートによる用瀬地域全体の「とても住みやすい」又は「どちらかといえば住みやすい」と答えた割合	地域生活拠点としての魅力的なまちを定量化する指標として、アンケート調査による満足度とする。歴史や文化、景観を活かした生活環境の整備、安全性の確保、交通結節点機能の強化により、住みやすいと感じる住民の割合を鳥取市全体の平均である79%を目標とする。	52%	平成21年	79%	平成26年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>① 人に優しい道路整備や防災機能の強化により、安全で安心して暮らせる良好な居住環境の形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心に暮らせる都市基盤整備 歩行者や自転車安心して通行できる生活道路の整備 夜間でも安全に歩ける道路の整備 ・多様な居住ニーズへの対応 空き家、空地の活用、共同建て替えなどを支援し、UJIターナー者や若年層の定住を促進する。 ・地域のふれあいや交流の場の整備 来街者との交流や居住者のふれあいのための駅前広場や街角広場を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ道路整備事業 【基幹事業 高質空間形成施設】 ・市道別府美成線 歩道整備事業 【関連事業】 ・市道下古用瀬1号線 三角橋改修事業 【関連事業】 ・防犯灯設置事業 【提案事業 地域創造支援事業】 ・「歩いて暮らせるまちづくり」交通実験 【提案事業 事業活用調査】 ・道路補修事業（交通安全統合補助） 【関連事業】 ・空き家バンク運営事業 【関連事業】 ・UJIターナー住宅支援事業 【関連事業】 ・新たな住宅供給方式等の促進支援事業 【関連事業】 ・用瀬中学校耐震補強事業 【関連事業】 ・J R用瀬駅前広場整備事業 【基幹事業 地域生活基盤施設】
<p>② 交通結節点機能の強化や公共交通網を再構築し、利便性を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J R用瀬駅の機能強化と他交通との連携 用瀬駅と国道53号を接続させることで機能強化を図るとともに、自転車や歩行者などのアクセスを向上させる。 ・路線バスの利便性・快適性の向上 国道53号沿いにバス停留場を設け、幹線バスと地域循環バスの乗り継ぎ抵抗の緩和や利便性を向上させる。 ・用瀬インターチェンジとの連携の強化 観光交流の促進、安全で、円滑な交通環境を確保するため用瀬地区と用瀬インターチェンジとを連絡するアクセス道を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道用瀬駅横断線 歩道整備事業【関連事業】 ・自転車駐車場整備事業 【基幹事業 地域生活基盤施設】 ・用瀬交通広場整備事業 【基幹事業 地域生活基盤施設】 ・総合公共交通システム実証運行事業【関連事業】 ・市道別府美成線 歩道整備事業 【関連事業】（再掲）
<p>③ 歴史や文化、景観を活かした環境整備によりまちの魅力を高め、居住者や来訪者の快適性を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街並みデザインの一貫性による景観形成 地域特性に基づく街並み誘導のため街並みデザインを住民主導で策定し景観計画やまちづくり協定などの検討を行う。 ・まちの資源の保全と活用 瀬戸川と河川沿いの市道の修景整備を行ない、まちの魅力を向上させる。また、来街者の回遊性を持たせるため案内サインの整備を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街なみ形成ガイドライン策定事業 【提案事業 まちづくり活動推進事業】 ・コミュニティ道路整備事業 【基幹事業 高質空間形成施設】（再掲） ・瀬戸川水車復元事業 【関連事業】 ・情報板 サイン整備事業 【基幹事業 地域生活基盤施設】
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

用瀬地区(鳥取県鳥取市)	面積	57 ha	区域	用瀬町用瀬・用瀬町別府(一部)
--------------	----	-------	----	-----------------



用瀬地区(鳥取県鳥取市) 整備方針概要図

目標	地域資源や交通特性を活かしながら安全で安心して暮らしやすい地域環境を構築し、地域生活拠点として魅力的なまちの実現をめざす。	代表的な指標	居住者人口 (人)	973人 (H21年度) →	934人 (H26年度)
			用瀬バス停留所の乗降客数 (人/年)	81人 (H22年度) →	122人 (H26年度)
			住みやすさの満足度 (%)	52% (H21年度) →	79% (H26年度)

